

平成22年度	施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家	番号	22
--------	----------	------------	----	----

平成22年度

施設評価調書

施設の名称……青少年海の家

所管担当課……教育委員会生涯学習課

平成22年7月

平成22年度	施設名(愛称名)	下田市立青少年海の家	番号	22
--------	----------	------------	----	----

施設の概要

1 施設名 (愛称名)	下田市立青少年海の家		2 担当課 担当係	生涯学習課 社会教育係			
3 所在地	下田市田牛 217 番地		4 設置年月	昭和 41 年 4 月 昭和 50 年 4 月 1 日開設			
5 総合計画の 位置付け	Ⅱ 人財づくり		未来の人づくり	青少年教育			
	施策体系		青少年健全育成の推進	健全育成運動の推進			
	主要事業		青少年健全育成事業	青少年健全育成運動の展開			
6 設置目的	青少年の健全な育成を図る						
7 設置根拠	下田市立青少年の家設置及び管理に関する条例						
8 施設の概要	施設の概要	敷地面積 3,361 m ² 床面積 601 m ² 木造平家建 *旧登自尋常高等小学校					
		収容能力 48 ベッド 集会室 浴室 調理室 和室 広場					
	実施事業 の概要	市内の小・中・高校の児童生徒及び市内青少年団体・社会教育団体等の訓練・研修活動のために設置されている。					
	料金体系	料金区分	1 宿泊せず施設を使用する場合				
2 宿泊する場合							
主な料金		1 宿泊せず施設を使用する場合					
		種別	単位	昼	夜	昼夜	備考
		会議室	1 回	300 円	500 円	800 円	
		談話室	〃	200 円	300 円	500 円	
		調理室	1 人	50 円			
		浴室	〃	50 円			
		2 宿泊する場合					
		種別	単位	金額		備考	
	宿泊料	1 人 1 泊	一般	500 円		入浴並びに毛布 1 枚を含む。 光熱水費 100 円別途徴収	
			中学生	200 円			
小学生			100 円				
毛布使用料	1 枚 1 夜	50 円					

平成22年度

施設名（愛称名） 下田市立青少年海の家

番号 22

8 施設の概要	料金体系	減免内容	(使用料の減免) 第4条 下田市立青少年の家設置及び管理に関する条例第11条に定める公益上必要と認める使用とは次の場合とする。 (1) 教育委員会が主催し、又は委託する事業に使用する場合 (2) 下田市内の小学校、中学校、又は学区内の高等学校が単独で又は連合して行う教育訓練又は研修のために使用する場合 (3) 教育委員会が認めた社会教育団体が、訓練、研修のために使用する場合 (4) その他特に教育長が適当と認めた場合		
		利用料金制度	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	施設運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接運営			
		<input type="checkbox"/> 指定管理者制度 → 指定管理者 <input type="checkbox"/> 一部委託 → 委託内容			
直接従事職員	下田市職員数 1名				
9 市内の類似施設	下田市所有	あずさ山の家（下田市農村体験宿泊施設）			
	民間所有	なし			
10 取得費等の情報 (単位：円)	取得費及び財源内訳		平成21年度末残高		(備考) 減価償却の方法 ・ 定額法 ・ 残存価格1円 ・ 新設翌年度から償却 ・ 耐用年数 年
	土地取得費		土地残高		
	建物取得費		建物減価償却後残高	1円	
	財源内訳				
	国・県支出金				
	市債		市債残高	0円	
	一般財源				
	寄附金等				
物品(*万円以上)			物品減価償却後残高		

平成22年度	施設名(愛称名)	下田市立青少年海の家	番号	22
--------	----------	------------	----	----

11 年間経費 等推移 (単位：円)	区 分		H19年度決算	H20年度決算	H21年度決算	H22年度予算	
	収入	青少年の家使用料	217,600	273,500	91,700	300,000	
	収入合計		217,600	273,500	91,700	300,000	
	支出	7節	賃金	0	0	0	120,000
		11節	需用費	264,664	276,647	255,171	290,000
			消耗品費	19,628	16,352	21,000	21,000
			光熱水費	97,891	95,764	102,469	149,000
			下水道料	24,260	24,748	21,777	40,000
			燃料費	44,030	56,658	光熱水費へ移動	光熱水費へ移動
			修繕料	78,855	83,125	109,925	80,000
		12節	役員費	146,778	147,479	144,191	150,000
		13節	委託料	117,600	117,600	117,600	95,000
		18節	備品購入	0	0	0	227,000
	支出合計		529,042	541,726	516,962	882,000	
	減価償却費		0	0	0	0	
市債利子		0	0	0	0		
職員人件費		208,902	209,058	219,812	223,225		
下田市負担年間総経費		520,344	477,284	645,074	805,225		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人件費は、実額を算出記載(当該年度の人件費総額を按分し、事務量を勘案の上、1/30人工で算出した) ○ 総経費＝支出合計－収入合計＋職員人件費 ○ H18より管理人を田牛区に依頼していたがH22より市が再び雇用することとなった 						
12 施設利用 状況等の推移	利用状況	利用年度	H19年度決算	H20年度決算	H21年度決算	H22年度予算	
		利用者数	市内	797人	656人	506人	人
			市外	1,705人	2,761人	2,340人	人
			合計	2,502人	3,417人	2,846人	人
	参考：利用単位 当たり市負担額	207.97円/人	139.68円/人	226.66円/人	円/人		
	算出方法：11欄の「下田市負担年間総経費」÷利用者数						
休館日							
使用時間	午後10時消灯厳守						
13 利用者 満足度調査	実施の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無				調査結果	
	直近の実施時期						
	調査手法						
	調査数						

平成22年度

施設名（愛称名） 下田市立青少年海の家

番号 22

業績評価

1 目標達成度

目標達成度	区分	単位	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	利用者数の目標値	人	2,400	2,500	3,400	3,400
	〃の実績	人	2,502	3,417	2,846	
	目標達成度	%	104.25	136.68	83.705	
選択した指標	<input type="checkbox"/> 成果指標 <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の代替指標					
指標選択の理由	目標達成度を選定する指標として同指標を選択した理由 本施設は、青少年の健全な育成を図る目的で設置されている。したがって、端的に表す成果指標がないため代替指標を用いる。代替指標については使用料も目的に沿わないため過去3年の利用者数の最大値を目標値とする（H18年度2,337人、H19年度2,502人、H20年度3,417人）					
指標設定の考え方	区分	指標名	指標の考え方			
	成果指標					
	代替指標	利用者数				

（参考）

活動指標（施設の目的を達成するための具体的な手段におけるそれぞれの達成度合を把握できる指標）

活動指標			区分	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
活動指標①	目標指標		目標値					
			実績値					
			達成度					
	目標指標の考え方							
活動指標②	目標指標		目標値					
			実績値					
			達成度					
	目標指標の考え方							
活動指標③	目標指標		目標値					
			実績値					
			達成度					
	目標指標の考え方							

平成22年度

施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家
----------	------------

番号	22
----	----

2 効率性

効率性	区分	説明	単位	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	施設の総利用者数等①		人	2,502人	3,417人	2,846人	—
	年間経費②	施設の事業費・運営費および人件費の合計額	円	737,944	750,784	736,774	1,105,225
	利用単位当たり経費	②÷①	円/人	294.94	219.72	258.88	—
総利用者数等の考え方 施設の総利用総数等に用いた指標について記載してください。	宿泊者、会議室利用者（教育旅行、各種研修、田牛区、祭典等）、撮影のための利用者等の実数を集計した。	備考 コスト評価項目に関して留意事項、補足項目等があれば記載してください。	平成18年度より田牛区が管理人業務を無償で行っていたが、区の強い要望と適正な管理を実施するため平成22年度より管理人を雇用している。H21年度は有料利用者数が減少しているが、新型インフルエンザの流行によるとみられる。				

その他の指標		区分					
目標指数①	目標指数の考え方	目標値					
		実績値					
		達成度					
目標指数②	目標指数の考え方	目標値					
		実績値					
		達成度					
目標指数③	目標指数の考え方	目標値	掃除				
		実績値					
		達成度					

受益者負担の適正性	区分	説明	単位	H19年度	H20年度	H21年度
	①有料部分の年間経費	使用料等を徴収する部分の年間経費	円	737,944	750,784	736,774
	②受益者負担額	使用料の年間総額	円	217,600	273,500	91,700
	③受益者負担比率	②÷①	%	29.5	36.4	12.4
	④補正受益者負担額	減免者より正規の料金を徴収したと仮定した場合の受益者負担額	円	441,000 (市主催事業を除く)	320,600	98,200
	⑤補正受益者負担比率	④÷①	%	59.8	42.7	13.3

【参考】

運営に掛かる税負担 (市民負担)	年度		H19年度	H20年度	H21年度	H22年度(予算)
	人口(4月1日:人)		26,197	25,802	25,549	25,224
	人口1人あたり(円/人)	運営経費(収入除く)	19.9	18.5	16.6	23.1
		年間総経費	19.9	18.5	25.3	32.0

平成22年度	施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家	番号	22
--------	----------	------------	----	----

施設の現状分析

判断視点		項目	施設の状況
施設方向性の判断視点	① 施設の設置目的が時代のニーズに適合しているか	設置目的に沿った利用がされているか	平成21年度においては、1件の市内小学校、13件の市外学校の利用があった。その他は子供会やボイス以外の利用が主であり、設置目的に沿った利用がされている。
		住民の福祉の向上に対し、どのように寄与しているか	地元に着目した施設として、敬老会、防災訓練、祭典等で利用されている。
		将来に亘り必要な施設として住民の期待を高めているか	田牛観光協会が教育旅行の全体会会場として積極的に利用している。また、古い木造校舎が全国的にも少なくなっており、文化的な価値も高まっている。
	② 施設が十分に利用されているか	施設の修繕計画はどのようなものか	下田市内最古の学校建築物として、地域の教育史・建築史上、その価値は増しており、地元区からの存続の要望も強く、耐震化を計画している。今後も施設の特徴を活かし、形状を改変することなく維持したい。
		施設の運営方法と利用者の情報交換はどのようにされてきたのか	施設利用者には、記録簿（実施内容・感想・施設に対する意見含む）の提出をお願いしており、記録簿から利用者の声を把握している。
	③ 施設の管理運営主体が施設の利用目的から判断して適切であるか	同様の施設の設置がされているなど競合していないか	学校及び、青少年の教育を目的とした団体にのみ利用許可している。旅館・民宿等の観光宿泊施設とは目的が異なるため競合しない。
		民間においても十分可能な施設なのか	青少年の健全育成・社会教育を目的としているため利益を求められない施設であり民間の運営にはそぐわない。
	④ 使用料、利用者数、支出額、市負担額が適正であるか	使用料の算定に当たり実費経費と住民福祉の向上の比較はどうか	受益者負担率は10～50%程度であり、住民福祉に比重を置いている。
		同種施設との比較、近隣施設との比較してどうか	近隣施設と同等の額である。 〈参考〉 横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園 施設利用料 無料 食費のみ実費徴収 熱海市立少年自然の家 中学生以下 市内 210円 市外 420円 その他 市内 420円 市外 630円 沼津市立少年自然の家 中学生以下 220円 その他 520円 三島市立少年自然の家 中学生以下 市内 200円 市外 410円 その他 市内 300円 市外 610円
		計画上の利用者数と実際の利用者数の違いがどうか	宿泊を伴わない利用の人数・回数に大きく左右されている。
		施設の耐用年数は何年有るのか	現状では超過している。
		施設の今後の維持経費の算定はどうか	現状、必要最低限の経費で運営されている。今後、公の施設として維持するならば、耐震化を含め修繕費の増加は避けられない。

平成22年度

施設名（愛称名） 下田市立青少年海の家

番号 22

行政規模からの判断視点	①	施設の管理運営に係る経費が財政規模からして適正か	施設の管理運営の経費支出が下田市の行政経営からして妥当なのか	必要最低限の維持経費である。
			現行の管理運営を今後も継続していくことが適切か	青少年の健全育成という目的と施設の現状からして直営方式が妥当である。
	②	地域的な施設配置のバランスは適正か	旧町村単位における施設配置の見直しはされているのか	されていない。
	③	施設の統廃合が可能な施設はないのか	施設統合が出来る施設の組み合わせは有るのか	なし
老朽化と施設維持の比較から改築廃止をどう考えていくのか			昭和初期の学校建築として、文化的価値は高い。今後、耐震化の点で費用がかかることが予想されるが、歴史的建造物としての保存を考えていきたい。	
地域、民間に譲渡できないのか			青少年のための宿泊研修施設であることや、建物の価値の向上、出土文化財の保管場所があること等を考慮すると困難である。	
		施設の目的の範囲を拡大することにより統廃合可能にならないか	青少年の健全育成を目的とした宿泊施設は他に無い。また、観光的な宿泊を目的に加えると民宿等との競合になるため困難である。	
その他				

平成22年度

施設名（愛称名） 下田市立青少年海の家

番号 22

見直しの方策

評価種別		改善・見直しの方策案
市民と行政の役割分担評価	行政関与の妥当性	本施設は青少年の健全育成のための宿泊研修施設であり、利益を優先しないものである。また、地域の子どもは地域で育てるという視点からも行政が関与すべき施設である。
	受益者負担の妥当性	本施設の目的および施設の老朽化からみて、受益者負担率を上げることは妥当ではない。しかし、市外からの利用者や、宿泊を伴わない利用者、および撮影のための利用についての使用料は検討の余地がある。
	実施主体の妥当性	青少年の健全育成のための宿泊研修施設であることから、下田市教育委員会の所管施設であることが妥当である。
	廃止・休止・縮小・外部委託化・民営化などの方向性	施設の老朽化に伴い、将来的には宿泊者の受け入れに耐えられなくなることが予想される。その際、建物自体の文化的な価値を利用しながら別の存続方法を検討していきたい。
業績評価	利用者数等の目標数値及び利用者向上策など	過去3年間の最高利用者数を数値目標としている。何でも揃っているような満たされた施設ではない宿泊研修場所として、市内の小中学校に利用を呼び掛けていきたい。
	執行方法の見直しなど効率化のための目標及び方策	平成22年度より管理人を直接雇用し、建物の維持管理を強化している。現状、必要最低限の経費で運営しているが、今後、修繕費の増加が見込まれる。
	受益者負担の現状及び適正化のための方策など	受益者負担率は10～50%程度である。市外からの利用者や宿泊を伴わない利用者、および撮影のための利用についての使用料は検討の余地がある。
アンケート調査等	市民アンケート調査等の結果	未実施
サービス面等	サービスの迅速性や利便性など	職員が常駐していないため、利用者からの緊急な要請への対応が困難である。
	利用者満足度の観点からのサービス提供の質の改善方法	

平成21年度事業内容及び見直し事項

事業内容	素朴な宿泊施設としての特徴を活かし、学童などを対象とした体験合宿の実施 建物の歴史的な価値を活かした事業の実施
見直し事項	

平成22年度

施設名（愛称名） 下田市立青少年海の家

番号 22

施設懸案事項

No.	懸案事項	改善経費	備考
1	建物の耐震計画の立案	調査中	
2	旧宿直室の床修繕	未調査	壁面雨漏りにより（修繕済）、床が腐食している。
3	トイレ屋根・通路屋根の修繕	未調査	屋根瓦の劣化が著しい
4	窓枠・扉修繕	未調査	レール不良により開閉できない窓・扉がある
5	調理室の壁面修繕	未調査	経年劣化により、壁材の欠損箇所がある。
6	建物側面及び背面の塗装	未調査	側面についてはトタンの張替えを要する
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

今後の方向性

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 充実<input type="checkbox"/> 効率化等による見直し<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続等<input type="checkbox"/> 縮小等による見直し<input type="checkbox"/> 統廃合を進める	<p>（具体的な内容）</p> <p>地元区との協力 市内唯一の青少年健全育成のための宿泊研修施設として、下田市の児童生徒の教育に必要な施設である。また、地元区の利用（教育旅行）も年々高まっており、今や地域にとっても無くてはならない施設となっている。 前身が小学校であるため、地元区民の施設に寄せる思いは深く、平成21年度においても草刈や清掃の助力を得ている。今後も地元区の協力しながら運営していきたい。</p> <p>歴史的価値 下田市内最古の学校建築（旧登自尋常高等小学校）としてだけでなく、静岡県近代化遺産の候補となるなど、県下でも貴重な存在となっている。各地で次々と木造校舎が姿を消す中、当該施設は昭和初期の校舎の雰囲気の色濃く残しており、利用者からは昔を懐かしむ声と同時に、かつての学校生活を現代の子どもたちに伝える場としての有効性も提案されている。例えば、校舎の歴史を物語る展示など、工夫を凝らすことにより、建物としての価値を高めることができると考えられる。</p> <p>今後の活用 歴史ある素朴な宿泊施設としての特徴と、適度な広さの前庭（旧グラウンド）を有しており、宿泊利用だけでなく、青少年を対象とした各種事業の開催場としても有望である。また、教育や地域の歴史を伝える場として、文化的な利用も可能と考えられる。随所に老朽化が認められるが、建設当時の丁寧な施工により、今日でも建物としての機能を十分維持している。耐震化を実施し、今後とも地元区と協調しながら積極的な有効利用を図りたい。</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------